

令和2年産

大豆情報 (Vol.2)

令和2年8月17日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

7月以降の気象経過

<7月> 気温は低く、日照時間は少なく、降水量は多い

日平均気温は平年より1.1℃低く、日照時間は平年比41%と少なく、降水量は平年比171%と多くなりました。

<8月上旬> 日照時間は多く、降水量は少ない

日平均気温は平年差+0.3℃と平年並、日照時間も平年比110%と多くなり、降水量は平年比79%と少くなりました。

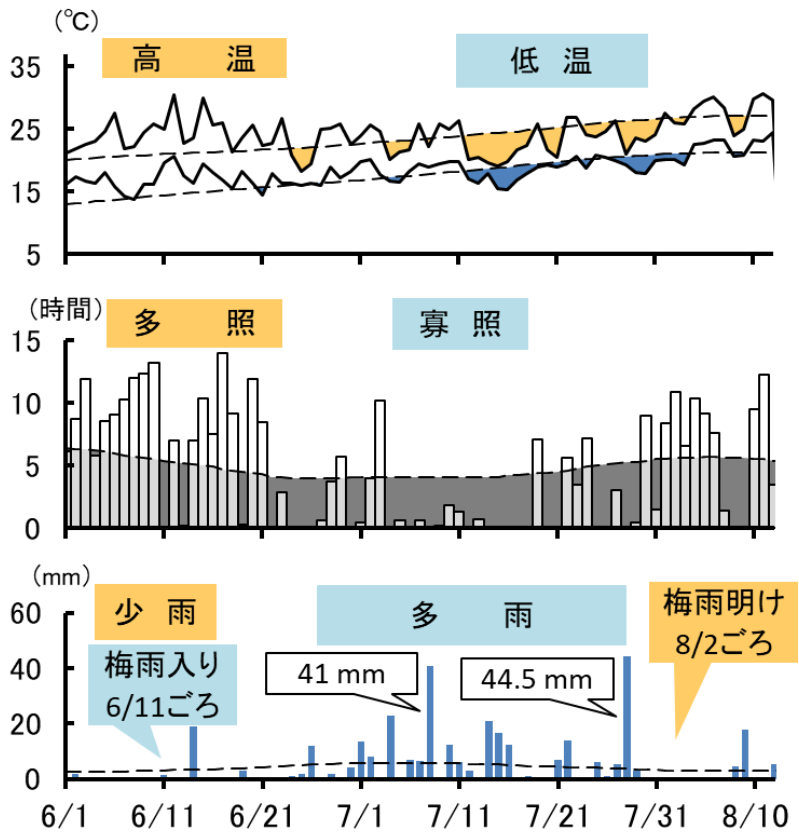


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温, 中:日照時間, 下:降水量
※点線は平年値

調査ほの生育状況(8/11)

分枝数は平年より多い傾向。ミヤギシロメが開花期を迎え始めています。

タンレイ(水沼) 6/13播種



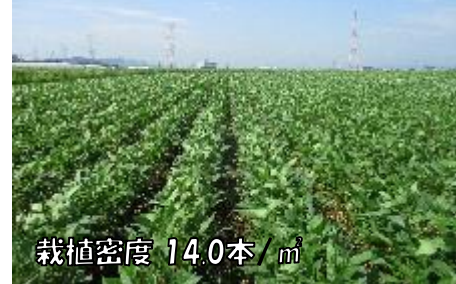
栽植密度 16.4本/m²

ミヤギシロメ(小船越) 6/5播種



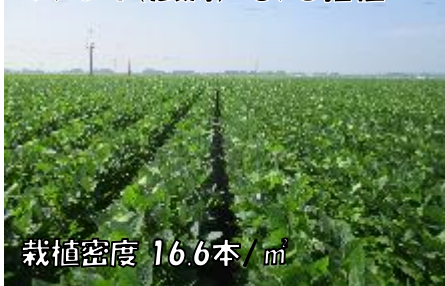
栽植密度 10.3本/m²

タチナガハ(蛇田) 6/19播種



栽植密度 14.0本/m²

タンレイ(広瀬) 6/8播種



栽植密度 16.6本/m²

ミヤギシロメ(牛田) 6/16播種



栽植密度 17.4本/m²

表1 調査ほの開花期と8月11日調査結果

品種(作型) 地点名(旧市町)		播種日 (月日)	開花期 (月日)	栽植密度 (本/㎡)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数	
							(本/本)	(本/㎡)
タンレイ (普通) 広淵(河南)	本年	6/08	8/02	16.6	67.9	14.3	2.0	32.6
	前年差・比	-18日	-9日	110%	+36.1	+4.8	+1.8	1293%
	平年差・比	-8日	-3日	115%	+16.9	+1.4	+0.1	122%
タンレイ (麦あと) 水沼(石巻)	本年	6/13	7/29	16.4	55.0	12.4	2.3	36.9
	前年差・比	-4日	-5日	130%	+3.0	+0.8	+0.9	219%
	平年差・比	0日	-4日	120%	-5.4	-0.5	-0.5	96%
タチナガハ (麦あと) 蛇田(石巻)	本年	6/19	8/08	14.0	45.9	11.9	2.1	29.8
	前年差・比	+11日	+3日	105%	+2.0	-1.2	+0.6	145%
	平年差・比	+5日	+5日	121%	-6.7	-1.4	+0.2	135%
ミヤギシロメ (麦あと) 小船越(河北)	本年	6/05	8/09	10.3	61.5	13.4	3.3	33.6
	前年差・比	-34日	-14日	98%	+39.5	+6.8	+2.6	509%
	平年差・比	-17日	-3日	105%	+5.5	+1.1	+0.8	143%
ミヤギシロメ (麦あと) 牛田(桃生)	本年	6/16	未確認	17.4	67.6	11.7	2.0	35.4
	前年差・比	-9日		196%	+15.7	+0.1	-0.3	172%
	平年差・比	-5日		160%	+14.0	-0.2	+0.1	168%

※1 平年値：H27～R1の5か年平均。

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

- ◆主茎長は概ね平年よりも長い傾向ですが、水沼タンレイと蛇田タチナガハほ場では平年を下回っています。
- ◆主茎節数は概ね平年並～平年を上回って推移していますが、蛇田タチナガハほ場においては平年を下回っています。
- ◆㎡当たり分枝数は概ね平年よりも多い傾向ですが、水沼タンレイほ場においては平年を下回っています。
- ◆開花期は播種時期が早いことから、平年よりも早い傾向ですが牛田ミヤギシロメほ場では8月11日調査では確認できませんでした。

今後の管理

◆病害虫対策

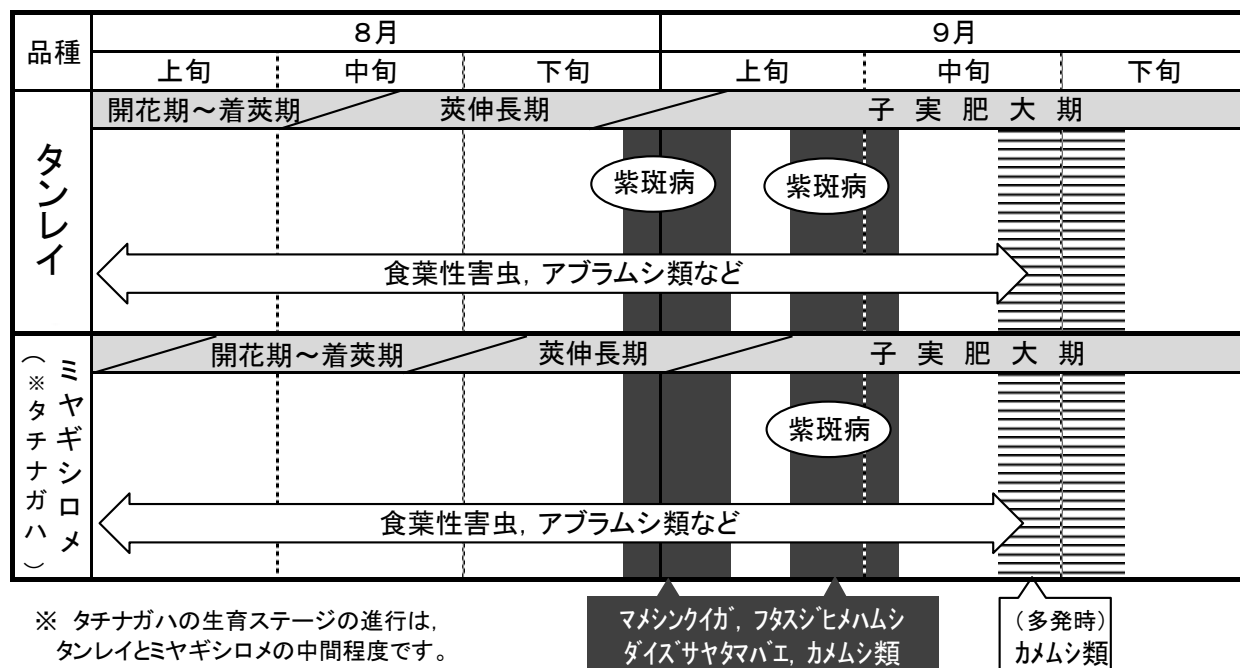


図2 主要病害虫の防除体系例

○ 紫斑病 ……> 開花期の20～40日後に防除

開花期の20～40日後に1～2回薬剤防除を実施しましょう。特に「タンレイ」は紫斑病抵抗性が「やや弱」なので、2回の防除を徹底しましょう。2回防除の場合、1回目は開花期後25日頃、2回目は開花期後35日頃に防除を実施しましょう。

<参考> ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果

(宮城県「普及に移す技術」第95号(令和元年度))

ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果として、プランダム乳剤25がアミスター20フロアブルと同等の効果が得られることが確認されました。

特に紫斑病の発生が多い「タンレイ」については、適期防除と剤の選定が重要となります。

※タンレイほ場にて開花31日後及び37日後の2回散布した試験結果

※耐性菌発生のリスクがあるため、同一剤の連用は避けましょう。

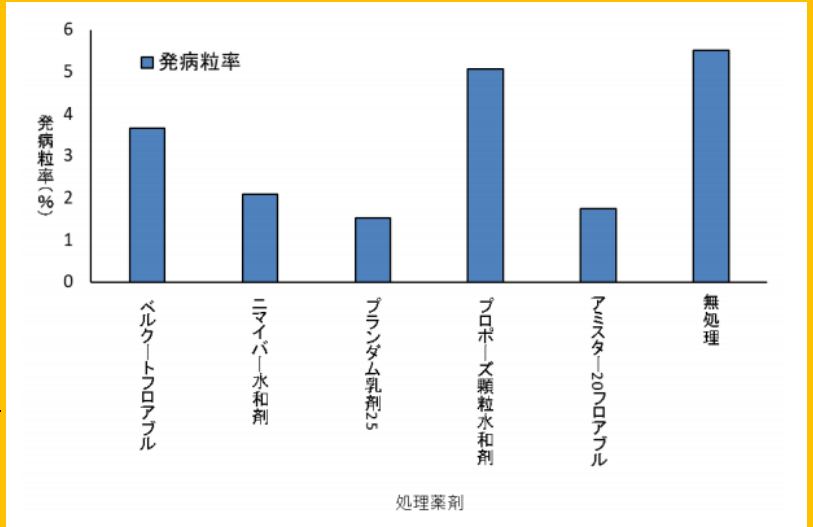


表2 供試した薬剤の発病粒率

○ 子実害虫

☆ マメシクイガ ……> 8月末～9月上旬に1回目、その7～10日後に2回目の防除

今年の発生量は「やや多」の予想となっており、連作4年以上のほ場や多発ほ場では防除が必要です。

※ アグロスリン乳剤、プレバソフフロアブル5は1回防除で高い防除効果の報告があります。

※ プレバソフフロアブル5を使用する場合は、残効が長いのでやや早めの8月下旬に防除しましょう。

☆ カメムシ類 ……> 8月下旬～9月上旬に防除、多発時は9月中旬～下旬に追加防除

発生量は「平年並」の予想です。マメシクイガと同時期の防除が基本ですが、多発時には、9月中旬～下旬に追加防除しましょう。

○ 食葉性チョウ目幼虫

食害葉面積20%(右写真)を目安に防除しましょう。



○ ジャガイモヒゲナガアブラムシ

例年8月下旬～9月上旬が発生のピークです。

葉の黄化・褐変が見られたら葉の裏を確認し、発生量が多い場合は早めに防除しましょう。

○ タンレイ

▶ 紫斑病対策を最優先

○ ミヤギシロメ・タチナガハ

▶ マメシクイガやカメムシ類等の防除を優先

◆雑草対策

◎ タデ類, シロザ, アメリカセンダングサ, イヌホオズキ等の雑草が収穫時に残っていると汚粒の原因となるため, 非選択性除草剤の畝間散布(雑草草丈約15cmまで)や手取りで除草を行いましょう。

◎ 9月以降, 多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため, イヌホオズキやアレチウリ, アサガオ類等の難防除雑草の多いほ場では, 早めに除草を行いましょう。

「大豆作における難防除雑草アレチウリの対策」(普及に移す技術第90号)に詳しいアレチウリの防除対策が掲載されています。

※ アレチウリは‘外来生物法’によって「特定外来生物」に指定されており, 生きたまま移動させることが禁止されています。防除を行う際にも, 生きた植物体(発芽可能な種子も含みます)を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意して下さい。

◆湿害対策

◎ 大雨のあとや, 降雨が続く際はほ場を見回り, **排水が保たれているか確認**しまししょう。

排水溝は詰まっていないか



明渠に停滞水が溜まっていないか



<参考>

◆乾燥対策

◎ 大豆は開花期以降, 大量の水を必要とします。土壌の過乾燥は, 落花・落莢による減収の原因となるので, **晴天が7日以上続いて土壌が白く乾燥し, 日中の葉の反転(右下写真)が半分以上となるような場合には, 畝間かん水や暗きょの水閘(こう)を閉じる**などの対策が必要です。

※ 莢伸長期～粒肥大期(開花後11～42日)にかん水すると, 稔実莢数が多くなり, 莢先熟株の発生を抑止できるとの報告あり(富山農技セ)。



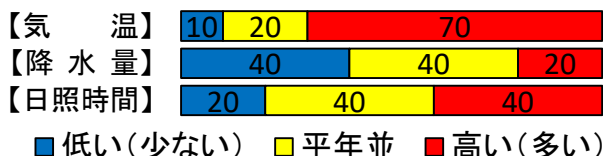
1か月予報 (8/15～9/14)

仙台管区气象台 8月13日発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

○1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)



○週別気温経過の各階級の確率(%)

